

M3T-MR30 ユーザーズマニュアル参照時のお願い

以下のM16C/60, M16C/30, M16C/20, M16C/10および M16C/Tinyシリーズ用リアルタイムOS M3T-MR30 ユーザーズマニュアルの訂正を連絡します。

- M3T-MR30 V.3.30 Release 2ユーザーズマニュアル
(ドキュメント番号 : RJJ10J0133-0100Z)
(PDF 551 KB)

1. 該当箇所

(1) 79ページ、18行目

誤	(crt0mr.a30 の102 行目)
正	(crt0mr.a30 の76 行目)

(2) 79ページ、20行目～22行目

誤	ユーザーに必要な初期化プログラムを追加する場合は、C 言語用 スタートアッププログラム (crt0mr.a30) の190 行目に追加して下さい。標準入出力関数を使用しない場合は crt0mr.a30 の191-192 行目をコメントにしてください。
正	ユーザーに必要な初期化プログラムを追加する場合は、C 言語用 スタートアッププログラム (crt0mr.a30) の175 行目に追加して下さい。標準入出力関数を使用する場合は crt0mr.a30 の134および135 行目のコメントをはずしてください。

(3) 84ページ、図5.14下の2行目～17行目 (1～5項および箇条書き部分)

誤	<ol style="list-style-type: none">1. セクション定義ファイルを組み込みます。[図 5.14 の12 行目]2. MR30 用インクルードファイルを組み込みます。 [図 5.14 の13 行目]3. システム ROM 領域定義ファイルを組み込みます。 [図 5.14 の14 行目]
---	--

4. システム RAM 領域定義ファイルを組み込みます。
[図 5.14 の15 行目]
5. リセット直後に起動される初期化プログラム
__SYS_INITIAL__ です。
[図 5.14 の 98 行目-246 行目]
 - システムスタックポインタの設定 [図 5.14の99 行
目]
 - プロセッサモードレジスタの設定 [図 5.14の101 行
目-103 行目]
 - FLG、SB、FB レジスタの設定 [図 5.14の104 行
目-108 行目]
 - C 言語の初期設定をおこないます。
[図 5.14の128 行目-154 行目]
 - OS 割り込み禁止レベルの設定 [図 5.14の163 行
目-165 行目]
 - 割り込みベクタテーブルのアドレス設定 [図 5.14の
166 行目]
 - MR30 のシステムクロック割り込みの設定をおこな
います。
[図 5.14の171 行目-176 行目]
 - 標準入出力関数の初期化[図 5.14の191 行目-192
行目]
標準入出力関数を使用しない場合は、この行をコメ
ントアウトしてください。
 - MR30 のシステム時刻の初期設定をおこないます。
[図 5.14の181 行目-185 行目]

- 正
1. セクション定義ファイルを組み込みます。(図 5.14 の11
行目)
 2. MR30 用インクルードファイルを組み込みます。
(図 5.14 の12 行目)
 3. システム ROM 領域定義ファイルを組み込みます。
(図 5.14 の13 行目)
 4. システム RAM 領域定義ファイルを組み込みます。
(図 5.14 の14 行目)
 5. リセット直後に起動される初期化プログラム
__SYS_INITIAL__ です。
(図 5.14 の 69 行目-238 行目)
 - システムスタックポインタの設定 (図 5.14の73 行
目)
 - プロセッサモードレジスタの設定 (図 5.14の75 行
目~77 行目)
 - FLG、SB、FB レジスタの設定 (図 5.14の78 行目

～80 行目)

- C 言語の初期設定をおこないません。
(図 5.14の100行目～126 行目)
- OS 割り込み禁止レベルの設定 (図 5.14の142 行目～144 行目)
- 割り込みベクタテーブルのアドレス設定
(図 5.14の145 行目および146行目)
- MR30 のシステムクロック割り込みの設定をおこないません。
(図 5.14の152 行目～159 行目)
- 標準入出力関数の初期化(図 5.14の134 行目および135 行目)
標準入出力関数を使用する場合はこの行のコメントをはずしてください。
- MR30 のシステム時刻の初期設定をおこないません。
(図 5.14の166 行目～168 行目)

(4) 85ページ、1行目～5行目 (6～10項部分)

誤	<p>6. 必要があればアプリケーション固有の初期設定をおこないません。 [図 5.14 の190 行目]</p> <p>7. MR30 が使用するRAM データの初期化をおこないません。 [図 5.14 の197 行目-241 行目]</p> <p>8. スタートアップの終了を示すビットをセットします。 [図 5.14 の244 行目]</p> <p>9. 初期起動タスクを起動します。 [図 5.14 の251 行目-255 行目]</p> <p>10. システムクロックの割り込みハンドラです。 [図 5.14 の285 行目-296 行目]</p>
正	<p>6. 必要があればアプリケーション固有の初期設定をおこないません。 (図 5.14 の175 行目)</p> <p>7. MR30 が使用するRAM データの初期化をおこないません。 (図 5.14 の185 行目～231 行目)</p> <p>8. スタートアップの終了を示すビットをセットします。 (図 5.14 の235 行目)</p> <p>9. 初期起動タスクを起動します。(図 5.14 の242 行目～257 行目)</p> <p>10. システムクロックの割り込みハンドラです。 (図 5.14 の298 行目～357 行目)</p>

2. 改訂スケジュール

マニュアルの次期リビジョンアップの際に改訂します。

[免責事項]

過去のニュース内容は発行当時の情報をもとにしており、現時点では変更された情報や無効な情報が含まれている場合があります。ニュース本文中のURLを予告なしに変更または中止することがありますので、あらかじめご承知ください。

© 2010-2016 Renesas Electronics Corporation. All rights reserved.